

9 日ロ地先沖合漁業交渉

日本とロシアとの間では、昭和 59 年 12 月に成立した「地先沖合漁業協定」に基づき、毎年、操業条件について日ロ漁業委員会が決定し、相手国 200 海里水域内に入漁しています。

平成 26 年 12 月の日ロ漁業委員会第 31 回会議では、以前から要望していたマダラについては、前年を大きく上回る割当量が確保されましたが、スケトウダラについては、近年の資源量減少に伴い、割当量が大幅に減少し、全体漁獲割当量は 6 万 2,395 トンの漁獲割当量となっています。

(1) 合意内容

① ロシア 200 海里水域における日本漁船の操業条件等

ア. 相互入漁

区分	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
総漁獲割当量	51,355t	51,355t	62,096t	71,303t	62,395t
総隻数	546 隻				

イ. 有償入漁

区分	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
総漁獲割当量	5,098t	5,098t	5,098t	4,998t	2,026t
総隻数	45 隻	45 隻	45 隻	45 隻	22 隻
入漁料	2 億 1,148 万円	8,743 万円			

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚種	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
	相互入漁	有償入漁	相互入漁	有償入漁	相互入漁	有償入漁
スケトウダラ	10,126t	3,000t	10,126t	2,900t	1,500t	1,078t
マダラ	821t	190t	821.5t	190t	1,108.8t	190t
サンマ	41,370t	-	51,370t	-	51,370t	-
イカ	8,010t	580t	7,217t	580t	7,007t	150t
その他	1,769t	1,328t	1,768.5t	1,328t	1,410t	608t
計	62,096t	5,098t	71,303t	4,998t	62,395.8t	2,026t
	67,194t		76,301t		64,421.8t	

② 日本 200 海里水域におけるロシア漁船の操業条件等

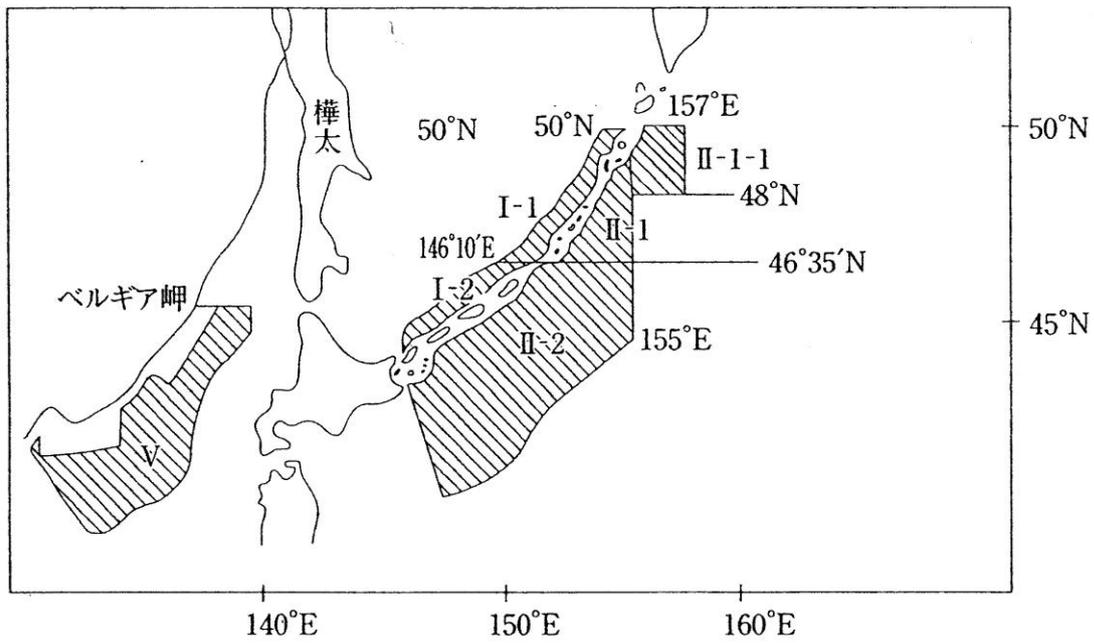
ア. 相互入漁

区分	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
総漁獲割当量	51,355t	51,355t	62,096t	71,303t	62,395t
総隻数	101 隻				

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚種	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
イワシ・サバ	13,296t	13,296t	13,296t
イトヒキダラ	27,800t	27,800t	27,800t
サンマ	21,000t	30,207t	21,299t
その他	-	-	-
計	62,096t	71,303t	62,395t

(2) 日口地先沖合漁業交渉操業海域図



○ 相互入漁水域		
I-1区	千島 (オホーツク海側北)	底はえ縄
I-2区	千島 (オホーツク海側南)	底はえ縄
II-1区	千島 (太平洋側北)	中層トロール、底はえ縄、棒受け網
II-1-1区	千島 (太平洋側北)	中層トロール、着底トロール、底はえ縄
II-2区	千島 (太平洋側南)	底はえ縄、棒受け網
V区	日本海	いか釣り
○ 有償入漁水域		
II-2区	千島 (太平洋側南)	着底トロール、中層トロール

資料：北海道水産林務部漁業指導課

注：II-1、II-1-1、の中層トロール・着底トロールは、遠洋底びき網、
II-2の着底トロール・中層トロールは、沖合底びき網